

2022/7/2-4

(It`s a English. Our side language English II The way of sentence construction PART 1)書庫版



さていよいよここからが難所です。

難所という意味は皆様方にとって難所という訳ではなく、皆様方にわかっていただけるようにどうやって書くかという書き手にとっての最大難所、箱根将又天城峠越えだという意味です。

今回のお題は

「思いついた英単語から、次はそれを元にした咄嗟の構文選びと、その後次から次へと、落としそうで落とさない綱渡りリレーバトンを手渡ししながら、どうやって次の短文へとつないでいくか？」

の方法論の説明です。

●何よりも第一は、自分が喋った時の喋り易さ、リズム感、テンポ速度を念頭に置くことです。そして最初に浮かんだ語から、ためらわずに口にする事です。又可能なら相手が訊いた時に聞き易いだろうかの自問自答に合格しそうな音やリズム、テンポを念頭に置くことです。

●では、最初に選択する際、選びやすいように基本的な構文を上げておきましょう。

I think, know や feel, like, love 等の感情、感覚動詞。それと have, get, make, take, do, put, give 等の超有名動詞でスタートするもの

It`s a(the)~that(or which)

What ~(処のもの)で始まるもの

動名詞(ing)で始まるもの

To~で始まるもの

If~で始まるもの

6W + 1H で始まる疑問文

これらに組み合わせる時制などは大まかで結構。現在完了、過去完了などは、初めは無視し

て結構です。過去形、現在形、そして未来形の 現在形+ will の区別くらいで。
まずはそれくらいの種類から。

●次は構文の中でどの構成の文をとるかの選択肢も上げておきましょう。

以下 S=subject(主語)V=verb(動詞)O=object(目的語)C=compliment(補語)
の組み合わせです。

S + V

S + V + O

S + V + C

S + V + O + C

持っている駒はこれだけです。

●是をその瞬間ごとに「とっかえひっかえ」組み合わせていく訳です。

と言ってもそれほど難しいわけではありません。

慣れると

「次は大体これをつなぐしかないよな」

というのが感覚的に分ってきます。というより「なんとなくそんな感じのものが構文の方から」出てきます。

「次は私の出番でしょう」

みたような雰囲気です。

●一番大切なのは、細かいことに拘らない事。間違えたら外国人さんが直してくれるから大丈夫、位の気持ちでどんどん声に出してみる事。間違えたなと思ったり相手が分からず怪訝そうな顔をしたりしていたら

Sorry. You no understand my saying? Once more try, OK?

(ごめん。わかんない？もう一回やっても(説明して)もいい?)

位の詫び口上さえ入れておけば。

●間違えた事で、そしてそれを素直に認めて「教えを乞う」た事で相手はむしろ親しみやその率直な態度にこちら側の誠意を感じてくれる場合が非常に多いですから。

コミュニケーションの要諦は「飾らず素直」である事は全世界共通の様です。

では次回、或いはその後の記事も続けて、いよいよ本記事で紹介した要素の実際の組み合わせ例を試していきましょう。